



まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和8年6月26日

豊玉中学校だより No. 37

【E-mail】 matsushita.yoko2@nerima-ky.ed.jp

【URL】 <https://www.nerima-ky.ed.jp/toyotama-j/>

梅雨に入り、校庭の紫陽花が落ち着いた色合いを見せる季節となりました。5月30日に実施した運動会では、生徒一人一人が最後まで集中して競技や演技に取り組み、仲間と力を合わせてつくり上げた姿が随所に見られました。ご来校いただいた保護者・地域の皆様には、温かい声援と見守りをいただき、心より感謝申し上げます。生徒にとって、自分たちの力で行事を形にした経験は、大きな自信につながったことと思います。

6月も下旬となり、1学期のまとめに向けて学習や生活の振り返りを進める時期となりました。定期考査の結果については、できたことや、これから伸ばしたい部分・補いたい部分を家庭で一緒に確かめていただけると、夏休みに向けた見通しがもちやすくなります。学校でも、日々の授業や学級活動の中で、一人一人が落ち着いて取り組めるよう、これからも環境づくりを丁寧に続けていきます。

今年は気温が極端に上がりすぎずやや過ごしやすいい日が続いていますが、湿度が高く体調を崩しやすい時期でもあります。水分補給や睡眠時間の確保など、引き続きご家庭での見守りをお願いいたします。学校でも、日々の生活の中で必要な声かけや支援を続けながら、生徒が落ち着いて1学期の締めくくりを迎えられるよう取り組んでいきます。

令和8年6月15日 全校朝礼より

皆さん、おはようございます。もう2週間も経ってしまいましたが、先日行われた運動会は素晴らしい一日となりました。学級ごとに団結して競技に向かい応援しあう姿、そして学級・学年を超え協力して作り上げたハカやフラッグ、ルパン、さらに今年からチャレンジした応援合戦にもとても感動しました。さすがは豊玉中学校の生徒と誇りをもちました。明日からは定期考査、自分と向き合い、一人で立ち向かうチャレンジになります。全力を出し切れるよう頑張ってください。

さて、今日は、私が最近体験した出来事をきっかけに、「ありがとう」という言葉について考えてみます。

先日、電車に乗っていたときの事です。ある駅で、男性が慌てて電車を降りようとしていました。「どん！」肩掛けの紐が外れ、カバンが床に落ちました。急いで拾い上げたものの、今度はサイドポケットの折りたたみ傘が転がり落ちました。近くに座っていた女性がすぐに拾って一旦電車を降りて渡したのですが、その男性は何事もなかったように受け取り、そのまま去って行きました。「ありがとう」の一言もありません。その瞬間、私の中に小さな違和感が残りました。どうして言わないんだろう。言えなかったのか、言わなかったのか。その違和感はしばらく消えませんでした。

そこで、「ありがとうって何だろう」と思い、最近話題のチャッピーで調べてみました。すると「ありがとう」は「有り難し」から来ていて、「あることが難しいほど貴重」という意味だと出てきました。つまり、誰かが自分のためにしてくれた行動は、本来は「当たり前ではない」。滅多にない、有り難いことだという考え方が、この言葉の根っこにあったのです。

では、「ありがとう」の反対は何か。明確な反対語があるわけではないようです。しかし、教育や心理の分野では、態度としての反対概念として「当たり前と思う心」がよく語られます。誰かがしてくれたことを「当然だ」と思うってしまう気持ち。そこには感謝も、気づきも生まれません。

この「当たり前」という感覚は、学校生活だけでなく、家庭の中にも静かに広がっています。授業があるのは当たり前、給食が出るのは当たり前、友だちが話を聞いてくれるのは当たり前、先生が支えてくれるのは当たり前。けれど、本当はどれも「当たり前」ではないのです。誰かの準備や気づきや積み重なって成り立っていることを忘れられているのです。そして家庭では、この「当たり前」がさらに強くなりがちです。毎日食べるごはん、毎日着る服、安心して眠れる場所。日常に溶け込みすぎて、意識しないと見えなくなるものばかりです。でも、皆さんの生活の中には、必ず誰かの「手間」がかかっているのです。

「ありがとう」を増やすにはどうしたらいいのか。それは、相手の行動に気づくことです。プリントを配ってくれたとき、ドアを押さえてくれたとき、掃除を黙々と続けていたとき、家で生活しやすいように整えてくれたとき。こうした小さな行動に気づける人は、周りをよく見ている人です。そして、気づいたことを言葉にできる人は、周りの空気を少し柔らかくします。

そしてもう一つ。「ありがとう」は、相手のためだけの言葉ではありません。誰かの良い行動に気づいて「ありがとう」と自然に口にすると、自分の心の向きが整います。余計な力が抜けて、周りの見え方が変わります。それは、何かを「与えた」からではなく、自分がその行動に気づけたからなのです。ありがとうは、相手を下に置く言葉でも、自分を上に置く言葉でもなく、人と人が同じ高さに戻るための言葉だと思っています。

最後に、電車での出来事に話を戻します。あの男性が「ありがとう」と言わなかった理由は分かりません。ただ、もし「当たり前」と思っていたのだとしたら、もったいないことをしたな、と思います。

「ありがとう」は、自分の心を整え、毎日を少しだけ良くしてくれる言葉だから。

私も含めて人は様々な場面で自然に「ありがとう」が出てくるようになると、一日が少しだけ過ごしやすくなると思います。みなさんに話をしました。以上で、今日の話を終ります。

★第80回豊玉中学校運動会 ～豊玉伝説～

[豊玉伝説は今年度のスローガンでした]

◆一人一役プロジェクト・伝統のダンス◆

運動会実行委員長担当教諭

5月30日(土)初夏のような暑さの中、大盛況のうちに第80回運動会が幕を閉じました。この運動会では「一人一役プロジェクト」と観るものに感動を与えた「伝統のダンス」があったからこそ、伝説に残る運動会になったと感じました。

生徒の熱気と感動を支えたのは単に競技だけではなく、全校生徒が取り組んだ「一人一役プロジェクト」の存在が大きかったと思います。全員が運動会の「創り手」となり「自分の役割がこの運動会を支えている」という自覚のもと主体的に行動しました。「次は何が必要か」「みんなのために、今これをやろう」と自らアイデアを出し「みんなのために自分ができることは何か」を考えて実行しました。「自分の仕事みんなの役に立った」という手ごたえは、生徒たちに大きな自信と仲間との絆を深めることができたと思います。

豊玉中の特色でもあるダンスの一つ「ハカ」は3年目を迎え、完成された演技を披露することができました。「地響き」する力強い足踏み、空気を震わせる大きな掛け声、そして全身から溢れ出すエネルギーは観るものすべての視線を釘付けにしました。

女子の「フラッグ」ではピンクとブルーの小旗を使い、計算しつくされたタイミングとフォーメーションで華やかな演技を披露しました。美しさと華麗さ、そして風を切るフラッグの音は観る人の心を一瞬で引き込みました。

そして運動会の最後を締めくくった全校生徒による「ルパン三世」。初めて習った1年生は「踊ることが楽しくてたまらない」という満面の笑みを浮かべ立派に踊ることができました。最後の決めポーズでは勝ち負け関係なく、みんなの心が一つになった瞬間でした。

上級生が下級生のお手本になり、学校全体を引っ張っていく豊玉中の運動会。来年度も生徒の手で創り上げ、より一層感動できる運動会を楽しみにしています。



◆初の試み:縦割り応援(応援団)◆

応援団指導担当教諭

今年度の運動会より、初めて縦割り応援(応援団)を組織しました。豊玉中学校では初めての試みだったため試行錯誤の連続でしたが、生徒たちは「どのようにすれば全校生徒の士気が上がるのか」「各色の生徒たちを勇気づけるにはどのようにすればよいか」を時間をかけて考え、実行する姿がありました。

また、上級生から下級生、下級生から上級生と皆で協力する姿があり、学年を超えた取組ができたと感じています。来年度は今年度以上に縦割りの良さを生かし、より素晴らしい運動会になることを期待しています。

